

地廣闊な地理的事情にのみ歸すべきものでなくて、人文上の原因によるものであらうと考へる。

つきに六大都市の世帯及人口數をかゝげる。

	世帯數		人口	
	男	女	男	女
大阪	五〇、〇〇三	二、四三、五五九	一、三三、八六六	一、一〇、七三三
東京	四四、六〇〇	二、〇〇、五五九	一、二七、七七七	九四、七三三
名古屋	一七、三三九	九〇、七〇三	四七、〇一六	四〇、〇六六
神戸	一六、三三七	七七、五九六	四六、三〇五	三八、五一一
京都	一三、〇七五	七五、二四三	三六、七三六	三六、四四六
横濱	一三、五九六	六〇、九六六	三三、四七七	二六、八八九

(昭和五年十月一日現在、十二月八日速報)

### ○兵庫縣宍粟郡三方村の粟

粟が最近米國へ輸出されて好評であるのみでなく、支那粟や朝鮮粟が輸入される勢に見て兵庫縣の三方では今度各戸に丹波粟五十本づゝを最寄の空地に植付け十ヶ年後に七百石以上の生産を期してゐる、三本を一坪の割合で各戸五畝歩づゝを全村五百戸にわかち二十五町歩の粟林に二萬五千本を仕立て、五ヶ年後から實を採集し、十年目には平均一本三升の粟がとれる、一升五十錢と内輪に見積つて一戸平均一石五斗、七十五圓の收入とする、全村七百五十石、三萬七千五百圓の收入を得やうといふのである、これは勘定どほりにうれるかどうかはわからぬが、農村の參考と思つてこれをするす、丹波では既に粟林で二三百圓の收入をあげてゐる家は數が多い。

質疑 應答

### ○隴南のタンゲステン

江西省の南の方からタンゲステン鐵が出だしたのは民國四五年の頃で、六、七年には公司各所に築出し裕豐公司の如きは資本四十萬元を擁し鐵砂の運送販賣に當り、華南華盛等の公司は技師を招聘し發見鐵區三十餘箇所に達し七、八年の頃には一ヶ月の輸出四百餘萬元となり、江西及廣東商人は總て公司を組織したが大戰の後暴落したけれども土民は依然採鐵をつゞけ民國十年海外のタンゲステン市價回復に乗じ廉賣したので業務は再び股盛となつたしかし革命のために十六年には一度沈滞したが最近は稅局を隴州及大庾の二箇所に設け密賣をふせいでゐる、隴南縣の龜尾山を第一の産地とし大庾崇義二縣々界の諸山脈が之につぐその産量は一一七、六五〇擔に達し、一擔の價十一元九十一仙見當にして、産地上海間の運賃税金其他十二一角二分を要するから上海では一擔につき二十四元になる(一噸四百〇四元餘)

### 質疑 應答

問 中央アジアの交通と住民及産業

答 鐵道はもと中央アジア鐵道及タシケント鐵道であつたが、今回ノボシビルスクに達するトルクシヤ鐵道がついたから交通上の面目を一新しかけてゐる、ことにこのトルクシヤ線の支線を支那新疆省にむけて、一は露支國境のザイサン

一はチユーグチャク、一はアルマアタより伊犁に通ぜんとするものゝ如きは、この方面に於て注目すべき計畫である。

太古以來支那と歐洲との交通は天山北路及南路によつたもので、北路にはジュンガリー門がある、支那は自國の領土内であるにも不拘、新疆省中の都市に自國領事をおいてゐる、それは露國との關係が深いからであつて、露支國境方面にはソウイェットの税關が多く、イルケシタム、ナルイン、カラコール、コリジャツト、ホルゴス、バブトイ、サイサン等七ヶ所に達する。

航空路としては

アルマアタ——セミバラチンスク

タシユケント——ジュシヤンベ

ジュシヤンベ——クリヤア

モスコウ——タシユケント

タシユケント——カパール

の間に運用されてゐる。

住民 中央アジアの民族の基礎はタジク人である、この民族は深目隆鼻でイラン族であり、波斯人に屬し、中央アジア唯一の白人系統である、遊牧民の跳梁に堪えずして山間避地にのがれ、萎縮しつゝも、他の民族と混血することが少く今日に及んだ、言語は古代波斯語である、回教徒を信じ婦人は覆面しないものが多い。

ウズベク人は数が多いと同時に有力であるが、蒙古族とイ

ラン族との混血によりて生じたチユールク族であつて、言語はトルコ語に似たジャガタイ語といふを用ひる。

トルコマン人も同じくチユールク族であるが、如何にしてこの民族が出来たかは不明である、キルギス人も同じく混血で、トルコ語に近い語を用ひる。

産業

河川灌漑の行はれる所には農業が行はれ棉花の産が多い、これはソウイェットの奨励する所で外棉輸入防壁の積であるが、人民は米食を愛するから、米を作くらずして棉をつくれといふ政治には反感をいだく、但し苗代をつくらぬからたゞ古來の撒蒔である、雜草も取らぬために收穫率は我國の中間の水田の普通作から見ても二分一に達しない。一反に一石内外の作である。

又古から養蠶國であつたが目下大に増殖をはかつてゐるが桑畑の良いのがない。

いづれにしてもこの國では灌漑が先登に立つ。古くから之に注意したが最近ツラフミヤン河の新式灌漑を計畫し、三ヶ年計畫、千二百萬留で出来上つた、その結果八十萬ヘクタールの耕地が出来た。

ロシアは灌漑のために農民から料金をとるに際し、集團經營者には特典を興へ、個人農は甚しく不利の立場に置いてゐる、かくて農業の集合化をはかるといふのである。

何れにしてもこの方面が目下着々と新機運に向つてきたことは確實であり、支那の西方漸く天下の耳目をひかんとするに至つてゐる、之を日本人の滿洲經營の退嬰的なるに比して學ぶべきものがあらうと思ふがどうであらう。